

第1回 養父市行政改革推進委員会 議事要旨

日時：令和4年11月18日（金）15:00～17:30

場所：養父市役所本庁3階 第2委員会室

出席者：【委員】 田端委員、青木委員、荒木委員、石本委員、小林委員、田中委員、森田委員、※欠席 片岡委員、藤岡委員
【市役所】 広瀬市長、小井塚経営企画部長、羽瀨経営企画部次長（幹事）、安達経営・特区課長（幹事）、濱主幹、渡邊主事

※ 委嘱状の交付 15:00 開始

市長から委員へ委嘱状を交付。

1 開会（司会：安達 経営政策・国家戦略特区課長）

2 あいさつ（広瀬 市長）

3 自己紹介

4 オリエンテーション

5 役員選出

6 委員会の運営について

7 その他

【各委員の関心事、意見等】

- ・養父市の行政改革は基本的に第1次大綱の考え方を継続し貫いていると感じている。その一つが早くからの市民との協働、パートナーシップといった取り組み。一方で第1次大綱が策定された平成18年度と現在との大きな違いとして市民の高齢化などがある。
- ・農業特区に関し賛否様々な意見はあるにせよ、小さな自治体が一旦指定を受け、取組むと決めた以上は市を挙げて取り組むべき。
- ・市役所の横のつながりが不十分に感じる。地域の課題は一つの課だけで解決できるものは少ない。課題を持ち込む場合、どこに行っても誰に言えば良いのかわからない。
- ・教育の面で、少人数ならではの良い面、悪い面がある。自ら考えのびのびと、という姿よりも、自己肯定感の低い子どもが多いように感じる。自分の好きなことに集中して取り組めるような環境があって欲しい。学校間、地域間のつながりがあまりなく、連携が深まればと思う。

- ・ 農業について、せっかく地元産の良い産品があるが、口にすることが少ないように感じる。高齢化は仕方ないが、元気に楽しく生きていけるような養父市であって欲しい。
- ・ 特区は企業の参入とそこで生まれる雇用には効果があるが、一般農家にとってあまり関連がない。
- ・ 養父市には多くの観光財産があるがPRが一部に偏っておりもったいない。
- ・ ふるさと納税は貴重な歳入減。多く困り込みができれば。
- ・ 都市部の生活は便利だが、自然環境やコミュニティなど、養父市の方がより人間らしい生活が送れる。
- ・ 大綱でもまちづくり計画や各種計画でもいかに市民や職員に刷り込むか。書いただけではただの文字である。
- ・ 定員適正化について、いかに有機的に人を動かせるかという視点、また、足りない部分について、外部人材等をどのように活用するか。
- ・ 地元産品を地元で消費する、地産地消を売りにした誘客の取組ができないか。
- ・ インバウンドが進む中で、キャッシュレスが進んでいない。市全体で推進すべき。

8 閉 会 17:30 終了